

SY12-2

新潟県新潟市および見附市の小児生活習慣病(予防)健診の実際

小川 洋平

新潟大学医歯学総合病院小児科

小児生活習慣病(予防)健診の主な目的は「受診者(小児)が、健診を受けることを契機に、肥満、脂質異常症、高血圧、2型糖尿病などに関する自分自身の危険因子の状態を知り、日常生活を見直し、健全な生活習慣を体得し、将来の生活習慣病の発症を予防すること」であり、健診は「貴重な健康教育の場」といえます。

一方、本健診は学校検尿や学校心臓病検診などと異なり学校保健安全法等で規定されされていないため、実施の有無や対象者、健診内容等、各自治体での取り組みは様々です。

本項では、新潟県新潟市と新潟県見附市の健診の実際を紹介します。

～新潟市児童生徒の生活習慣病健診～

「新潟市児童生徒の生活習慣病予防事業」の一環として実施されています。新潟市教育委員会保健給食課が事務局となり、新潟市医師会、新潟市小児科医会、新潟市学校保健会、新潟大学小児科、新潟市健康福祉課、小中学校、検査委託機関などが協力しています。

対象は小学4年生と中学1年生の希望者とし、受診者費用負担額は1,000円です。学校を通じて各家庭に案内をし、夏休みに受診日を設けます。検査項目は家族歴、肥満度、腹囲、血圧、脈拍、HDLコレステロール、LDLコレステロールです。

本健診の大きな特徴が新潟市独自の判定システムです。専用に開発した解析ソフトにより、項目ごとに「正常」、「軽度異常」、「中等度異常」、「高度異常」の判定を行い、各項目の判定の組み合わせで総合判定を行います。総合判定は「異常なし」、「要注意」、「要指導」、「医療機関受診勧奨」だけでなく、各項目異常の組み合わせアルゴリズムにより「肥満症」や「メタボリックシンドローム」、「脂質異常症」、「高血圧」、「甲状腺機能亢進症」など疑われる疾患や病態を示します。これにより結果通知を通じて受診者と保護者へ結果が分かり易く伝わり、また精査先となる医療機関での診断の助けとなります。

事後指導として「異常なし」、「要注意」には啓発資料の配布を、「要指導」には保健師による個別健康相談を実施しています。

2016年から2019年の受診率(受診者数)は12.4～14.6% (1607～1922人)、健診後の個別健康相談実施率(実施数)は、10.2～25.1% (38～80人)でした。

～見附市小児生活習慣病予防健診～

「見附市小児生活習慣病予防事業」の一環として実施されています。見附市教育委員会こども課が事務局となり、見附市南蒲原郡医師会、埼玉医科大学小児科、新潟大学小児科、見附市健康福祉課、小中学校、検査委託機関などが協力しています。

対象は見附市内の小学4年生と中学1年生、前年度有所見者です。受診者費用負担はありません。検査項目は肥満度、腹囲、血圧、HDLコレステロール、LDLコレステロールです。

項目ごとに「正常」、「軽度異常」、「中等度異常」、「高度異常」の判定を行い、各項目の判定の組み合わせで総合判定を行います。総合判定は「異常なし」、「要注意」、「要指導」、「医学的管理」で、「異常なし」と「要注意」には集団指導を、「要指導」と「医学的管理」には養護教諭、栄養教諭、管理栄養士、保健師による個別健康相談を実施しています。

本健診の大きな特徴は、受診率と健診後の個別健康相談実施率の高さです。2016年から2019年の受診率(受診者数)は87.9～93.0% (579～618人)、健診後の個別健康相談実施率(実施数)は、62.8～76.0% (137～155人)でした。受診を無料とするだけでなく、各小中学校に協力してもらい、健診を平日の日中に校内で実施します。また健診後の個別健康相談は保護者面談など、保護者が学校を訪れる際に実施することにより、実施率を高めています。